

## (2) 北野田A遺跡

**所在地** 豊田市蕪木町北野田地内  
(北緯 35 度 1 分 36 秒  
東経 137 度 17 分 9 秒)

**調査理由** 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成  
事業

**調査期間** 平成 29 年 8 月～平成 29 年 10 月

**調査面積** 823 m<sup>2</sup>

**担当者** 尾崎綾亮 岡田浩季



調査地点 (国土地理院 1/2.5 万地形図「東大沼」)

**調査経過** 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に伴う記録保存発掘調査を愛知県企業庁より委託を受けて実施した。当初企業庁との契約面積は 550 m<sup>2</sup>であったが、発掘調査に着手すると、遺構が調査区の西側へ展開することが分かった。したがって企業庁、愛知県教育委員会と協議を行い、調査対象面積を 823 m<sup>2</sup>とした。

**立地と環境** 本遺跡は郡界川の支流である蕪木川流域に位置し、蕪木川の北側に尾根を連ねる丘陵部の南向き緩斜面部に立地している。調査前の状況は、周囲を尾根に囲まれた植樹林であった。周辺の遺跡として、南東方向に北野田 B 遺跡、さらに南には北野田 C 遺跡が存在している。

**調査の概要** 本調査では、中世・近代の遺構を確認することができた。

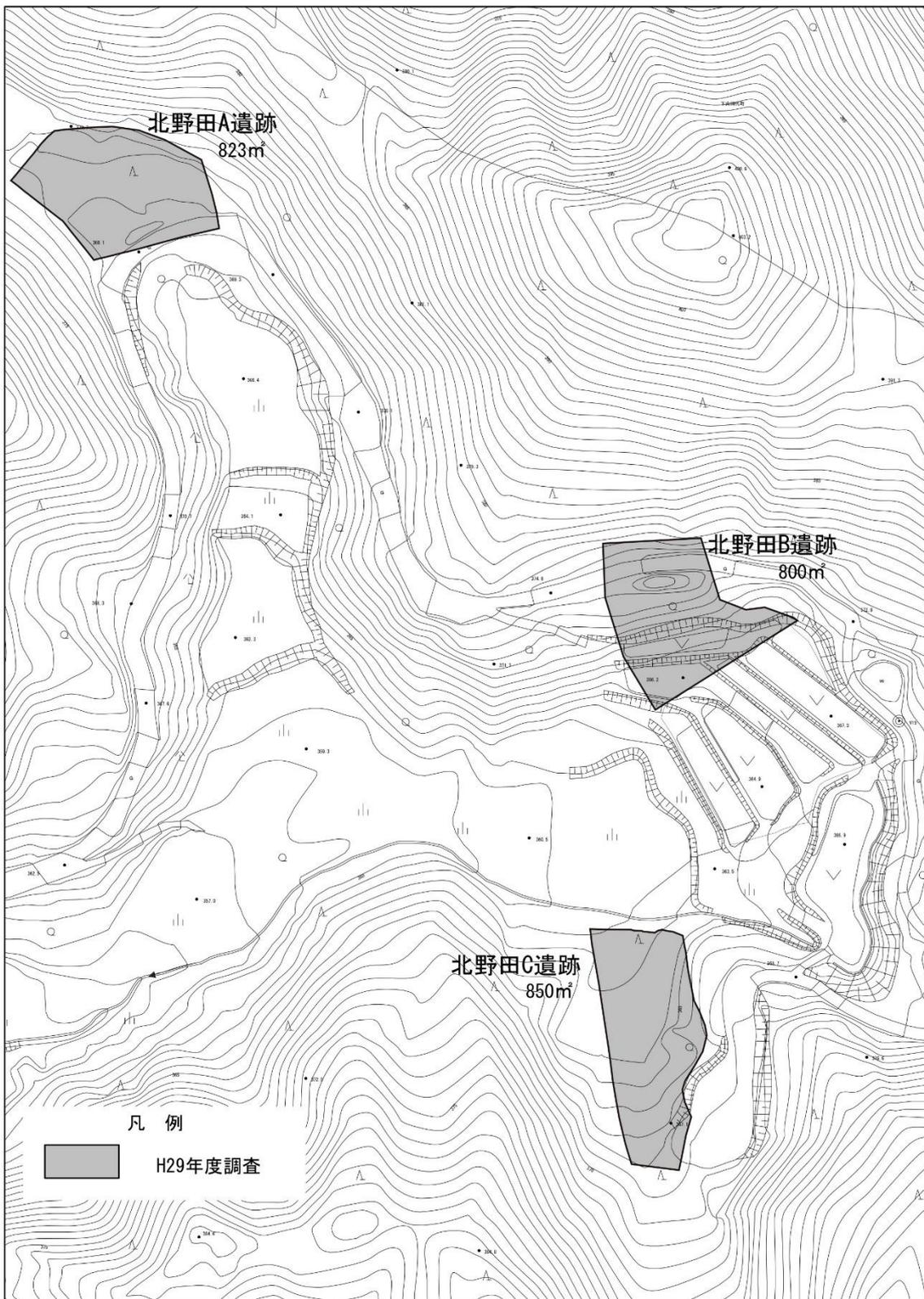
中世の遺構として、調査区東側の高まり部で柱穴群、西側で自然流路 (120NR) を検出した。

検出された柱穴は、100 基以上を数える。調査区東側で集中して確認できることから、掘立柱建物あるいは柵列などを何度も構築したことが考えられる。100 基以上ある柱穴のうち、028SP では、鎌倉時代後期の常滑産の壺がほぼ完形の状態で出土している。その他の柱穴でも青磁碗や山茶碗、土師器などの破片が数点出土している。

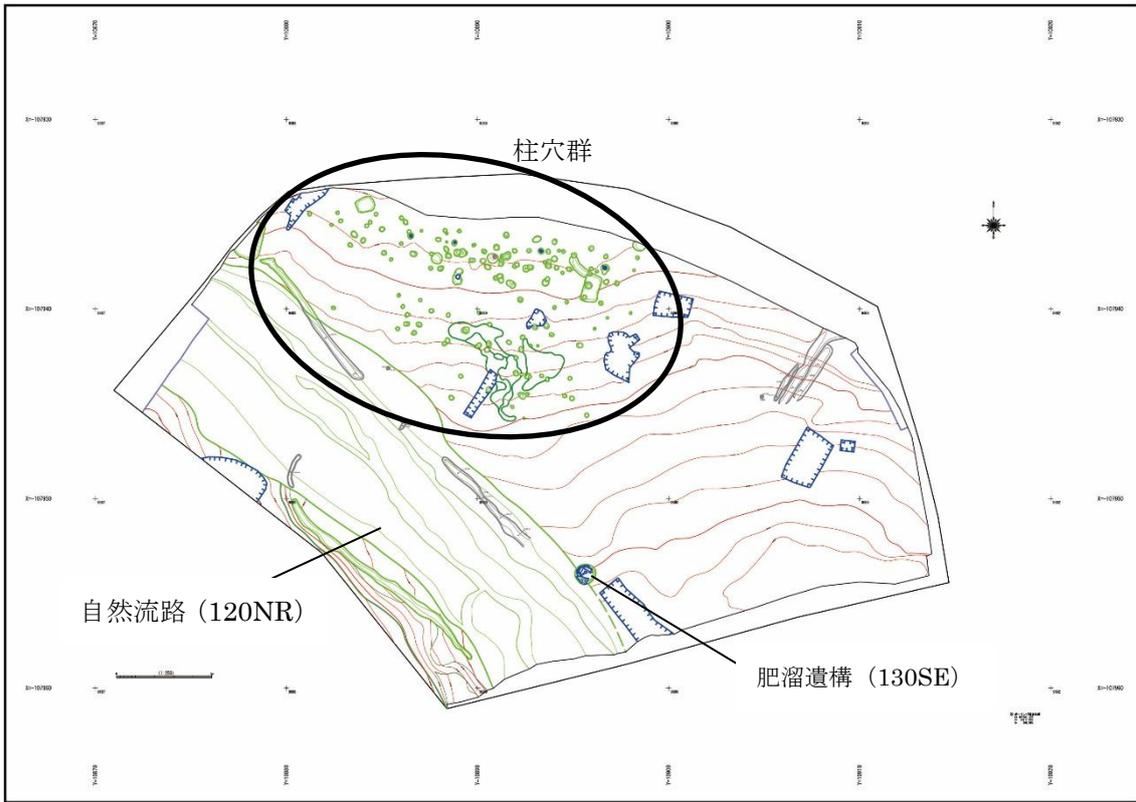
自然流路 (120NR) は調査区の北から南に向かって流れる。近世以降の耕作によって大きく削平を受けるが、底部付近には中世の遺物を含む埋土が堆積していた。遺物として山茶碗 (尾張型第 7・8 型式)、伊勢型鍋などの土師器が出土している。昨年度調査した北野田 B 遺跡、今年度調査した北野田 C 遺跡の自然流路で多く出土した木製品の未成品や分割材、切削痕のある枝、板材などは出土しなかった。

近代の遺構として、肥溜遺構 (130SE) が確認されている。遺構の掘削開始当初は上部に石組、内部に板枠が確認されたため、井戸として認識していたが、底板が設置された状態で検出されたため、肥溜めと改めた。

**まとめ** 昨年度調査を行った北野田 B 遺跡、今年度調査の北野田 C 遺跡に続き、北野田 A 遺跡でも鎌倉時代後期の遺構・遺物を確認することができた。特に 100 基を超える柱穴が検出されたことは、この地に人々の生業があったことを雄弁に物語っている。来年度整理作業を行う中で、北野田地区の他遺跡と成果を対比させながら検討を進めていきたい。  
(尾崎綾亮)



北野田 A 遺跡位置図 (1:1,000)



調査区全体図 (1:250)



北野田 A 遺跡全景 (北から)



調査区東側に集中する柱穴群



柱穴（028SP）常滑産壺出土状況



肥溜遺構（130SE）半裁状況